

## 「北極圏旅行記 2017 夏 (6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋  
～7/27 ヴィルヘルミーナの街へ～



友人宅滞在中も2日目になった。用意していただいた朝食は、典型的なスウェーデン式の朝食。パン、ハム、チーズ、ゆで卵、野菜、ヨーグルト、シリアルなど、超豪華な内容。「ノルウェーの朝食はこんなに豪華じゃないよ」と教えてもらった。



この日は、私のリクエストで、ヴィルヘルミーナという街に連れていってもらった。ヴィルヘルミーナ (Vilhelmina) はスウェーデン中北部の小さな街で、私の好きなスウェーデン映画にも登場する。私は、その映画や街の名前や歴史に惹かれて、まだ行ったことがないのだが、何枚か絵に描いたことがある。やはり一度行ってみたいと思い、友人のご主人に頼んでみた。片道 200km もあるドライブなのに、快く引き受けてくれて、街の案内もしてくれることになった。不案内な旅行者としては、大変有難いことである。



バストウトレスクからヴィルヘルミーナまでは、約3時間かかった。最初に行ったのは、「ヴィルヘルミーナ・ノーラ (北)」という駅。



ここには「インランズバーナン (内陸鉄道)」の小さな駅があって、列車(といっても1両だけの気動車)が50分も停車する。こんな森の中の何もないところに50分も停車するのは、近くのレストランで、乗客が食事をする為である。インランズ・バーナンは、かつてスウェーデン北部の開発の為に尽力したが、現在は観光鉄道として活躍しているのだ。





私も何度も乗ったことがあるので、とても懐かしく、運転席まで入って、運転士さんと長々と話しこんでしまった。幸い私が列車を遅らせることはなく、定刻通りに、ヨックモック方面に出発していった。ひと駅だけでも乗りたかったな、とちょっと残念だった。



私たちも、駅のそばのレストランで、昼食をとった。魚料理が有名なお店だ。これは「サンドイッチ」なのだが、パンが見えないほど、サーモンがぎっしり載っていて、とてもおいしかった。



おなか一杯になったので、いよいよヴィルヘルミーナの街へ。私が絵に描いた通りに、色とりどりの小さなお店がたくさん並んでいた。はじめて来たのに、なぜか何度も来たことがあるような錯覚に陥った。



最初に寄ったのは、サーミの工芸品のお店。サーミというのは、このあたりにトナカイの遊牧をしながら昔から住んでいる人々で、ヴィルヘルミーナももともとはサーミ人の街である。工芸品もトナカイの角や毛皮を使ったものが多い。



これは、白樺を使った手作りの工芸品。日本では白樺は成長がはやく、樹質もスカスカで、工芸品の原料としては適さない。しかしこのあたりの白樺は、成長がゆっくりで、樹質が硬く密なので、工芸品の材料として広く利用されているのだ。

私は写真のお弁当箱のようなものが気に入った。値段は中くらいのもので、100kr (約 1300 円) 程度だったと思う。荷物が多くなることを恐れて、買わなかった。買えばよかったと後悔している。旅先・・・特に海外では「買おうか買うまいか」迷ったら、「買い」である。